

研究テーマ

3年間を見通した防災学習の工夫と改善
～地域に貢献できる人になるために～

宮崎 洗生

1. はじめに

平成24年度より新学習指導要領が完全実施され、今回の改訂の基本的な考え方として、

- 体験学習の重視や教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動の充実
- 新しく章立てするなど教育課程上の位置付けを明確にする
- ねらいや育てたい力を明確にし、学習活動の見直しをおこなう

といった点があげられました。本校でもこれまで総合的な学習の取組を行ってきましたが、今年度は上記の改定の趣旨を意識し、テーマを設定して実践研究を進めました。

2. テーマ設定の理由

本校では毎年3年生の修学旅行の中でも総合的な学習の体験活動を行っています。3日間の一日を利用して神戸市の「人と防災未来センター」を訪問したり、ボランティアガイドさんの話を伺ったりして、防災（阪神淡路大震災）について学んでいます。現在本校に在籍している生徒は、小学生の時に東日本大震災も経験しており、当時のことを記憶している生徒も多くいます。また3年生の2学期には市役所や消防署の方を講師に招き、防災訓練も実施しています。

しかし、これまでの生徒とのかかわりの中で、自ら目的意識をもち、進んで学習に取り組む生徒が少ないと感じています。防災学習の在り方が生徒にとって単なる体験活動だけになってしまっていることや、自分の課題としてとらえることができていないことなどが原因ではないかと考えました。

そこで今回の研究では、防災教育を3年生の修学旅行や防災訓練だけでなく、入学してからの3年間の総合的な学習の時間を通して学習を積み重ね、段階的に取り組めるよう位置づけることで、生徒の防災に対する意識を高めようと考えました。そして地域性を理解した上で、有事の際などには、学んだことを生かして、地域の一員として、何かアクションを起こせるようになってほしいと考えています。

そのようにしていくためには、生徒自身が防災に対する意識を高め、現状の課題を見つけ、目的意識をもって主体的に課題解決に取り組む必要があります。そこで本研究では、次のような仮説を立てて進めました。

3. 研究仮説

前年度や次年度とのつながりをもたせ、見通しをもった防災学習を展開することで、生徒が自ら課題を見つけ、主体的に学習し、地域に貢献するために、問題をよりよく解決する資質や能力を育てることができるのではないか。

仮説の検証を行うため、次の通り実践しました。

4. 本研究の取組

本研究を進めていくにあたり、次にあげる5つの手立てに取り組み、防災教育を展開していくことにしました。

- ①活動に見通しをもたせ、学習を展開するために、オリエンテーションを利用するなどして、生徒に対して防災教育の全体計画を提示する。
- ②阪神淡路大震災や東日本大震災といった大きなスケールの災害から、座間市や各家庭といった身近な題材へと考えを巡らせることができるような視覚教材の作成と利用を行う。
- ③3年間の資料をファイリングできる総合ファイルを活用し、前年度や次年度とのつながりをもたせる。
- ④毎回の防災学習において、「自分なら何ができるか」「今の自分にどんな課題が見つかったか」などを記録、分析できるワークシートの工夫を行う。
- ⑤次年度の修学旅行（神戸の防災学習）へ向けて課題設定を行えるようなまとめワークシートの作成を行う。

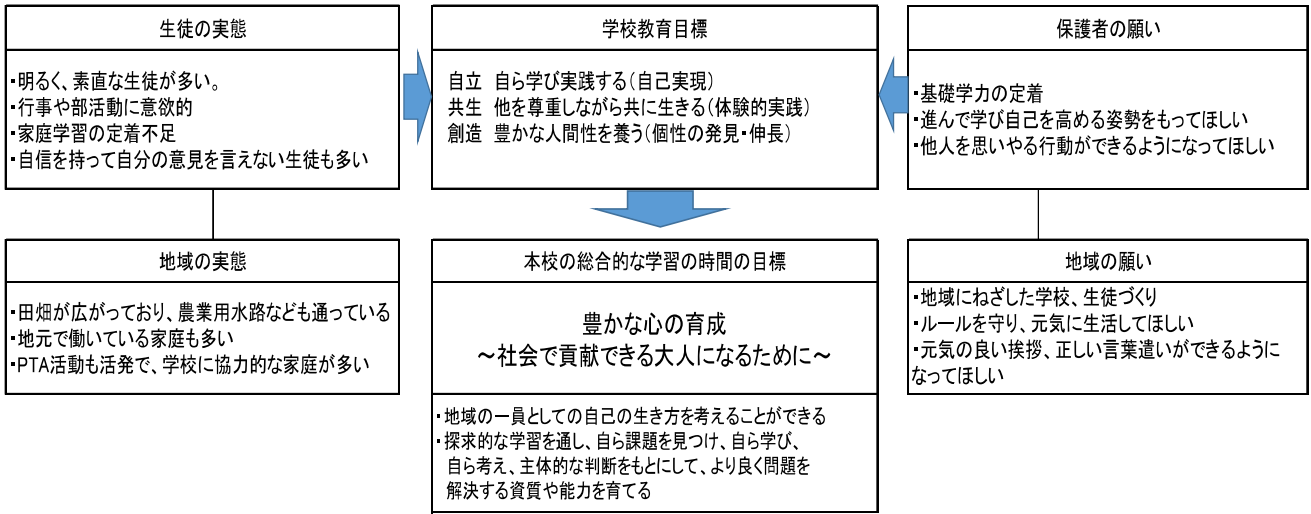
西中学校の、各学年での総合的な学習における取組については、年間指導計画に基づいて行われています。この年間指導計画の中で、防災学習に関するものをあげると以下ようになります。

- | | |
|--------|---|
| 3 学年共通 | ①避難訓練、引き渡し訓練
②地域の畑を利用したひまわりの栽培
③シェイクアウトの取組 |
| 1 年 | ①阪神淡路大震災を題材とした道徳（はるかのひまわり）を実施
②はるかのひまわりTV番組視聴
③消防庁のサイトを利用した防災学習（eカレッジの利用） |
| 2 年 | ①横浜班行動で横浜市民防災センターの訪問
②阪神淡路大震災、東日本大震災の事前学習 |
| 3 年 | ①修学旅行と絡めての防災事前学習
②神戸の「人と防災未来センター」の訪問
神戸ボランティアガイドさんとの防災学習…個人レポート作成
③座間市消防署による防災体験 |

まずはこの取組について総合学習部で検討を行い、全体計画の作成とそれに準ずる年間指導計画の作成を行いました。年間指導計画については、適切な時期や他の行事との兼ね合いも考え、各学年の様子も踏まえて作成しました。

平成27年度 総合的な学習の時間全体計画

座間市立西中学校



育てようとする資質・能力及び態度	
<p>学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自分の現状にあった課題設定を行う ・課題達成のために適切な手段を選択し、必要な情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、自分の考えを判りやすく伝える ・学習で得たことを振り返り、普段の生活に生かそうとする ・自己の目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する
<p>自分自身について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境を知り、地域の一員としての自己の生き方を考える ・互いの特長を生かし、協同して課題を解決する

学習内容		
学習課題	学習対象	学習事項
福祉	地域の障がい者とその暮らしを支える仕組みや人々	現代社会における福祉の現状と問題 福祉問題の解決やより良い福祉を創造するための取組
情報	情報化の進展とそれに伴う日常生活の変化	情報環境の変化と自分達の生活とのかかわり 目的に応じた主体的で責任ある情報の選択と発信
職業	職業の選択と社会への貢献 働く事の意味や働く人の願い	職業による自己実現と社会貢献 自分自身の夢や適正と職業の選択
防災	防災のための安全な街づくりとその取組	災害の恐ろしさや防災意識の大切さ 地域や学校の一員として、災害に備えた安全なまちづくり、学校づくりにかかわろうとする活動や取組
伝統文化	日本の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々	日本の伝統や文化の持つ特徴 日本の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々や社会の仕組み

学習活動・各学年のテーマ		
1年生	2年生	3年生
「地域を知る」 ひまわり畑 福祉体験 防災学習	「地域に学ぶ」 ひまわり畑 職業体験 防災学習	「地域への貢献」 防災学習 ひまわり畑 防災体験

評価計画	
評価の観点	評価の資料
<p>①学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の力 ・情報収集の力 ・問題解決能力 ・表現の技能 <p>②自分自身について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の獲得、応用 ・自分について考える <p>③他者や社会との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を取り巻く関係性の学習 ・他者と関わる力 	<p>①観察による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や話し合いの様子 ・見学や体験の姿勢 <p>②自己評価や相互評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード ・学習の記録 <p>③パフォーマンス評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート、壁新聞 ・プレゼンテーション

指導方法
<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を喚起する指導法の工夫 ・言語活動や体験活動を積極的に取り入れた学習活動の展開を行う ・地域や学校の特色に応じた課題設定を行う

指導体制
<ul style="list-style-type: none"> ・学年会と部会での実践と情報の交換を行う ・担任以外の教職員による支援体制を確立する ・小中連携を活用し、地域一体となった学習環境づくりを行う

平成27年度 総合学習に関連する行事・取組など

	1 年	2 年	3 年
4 月		防災関連施設の訪問の取組	神戸防災センターの訪問の取組
5 月		防災関連施設の訪問の取組	神戸防災センターの訪問
6 月	防災学習 e カレッジでの学習	訪問後の壁新聞制作 (レポート)	防災学習のまとめ 個人レポート作成
7 月 8 月	はるかのひまわり栽培 (実行委員会)	はるかのひまわり栽培 (実行委員会)	はるかのひまわり栽培 (実行委員会)
9 月		職場体験	防災訓練
10 月			
11 月	福祉体験の取組 はるかのひまわり TV 番組視聴 道徳：はるかのひまわり	職場体験 (防災関連施設含む) 職場体験レポート作成	(地域への貢献)
12 月	福祉体験の取組	職場体験レポート作成	
1 月	福祉体験の取組	阪神淡路大震災事前学習 (神戸防災センターの学習)	
2 月	福祉体験		

※ 3年間の学習を保存できるクリアファイルを作成し、活用を促しました。

※ 2学年については、阪神淡路大震災と座間市のシェイクアウトと関連付けるために、主に防災学習に取り組む時期を3学期と決めました。事前に生徒用の防災学習全体計画(日程や取り組むことの概要)を配付し、学習の見通しをもつところから始めました。6回の授業を計画し、教材と指導案を作成しました。

防災学習第1回	1月13日(水)	6校時	阪神淡路大震災を知る
防災学習第2回	14日(木)	6校時	災害後の復興について考える
防災学習第3回	19日(火)	6校時	防災について考える
防災学習第4回	20日(水)	6校時	想定される大地震(座間市、西中付近)
防災学習第5回	21日(木)	6校時	釜石の奇跡(東日本大震災に学ぶ)
防災学習第6回	25日(月)	6校時	防災学習のまとめ

共通テーマ	豊かな心の育成 ～社会に貢献できる大人になるために～
学年テーマ	地域を学ぶ

関連性のある学校行事など	学期	学習方法に関する こと	自分自身に関する こと	他者や社会とのかか わりに関する こと	時間
横浜校外 学習 ひまわり 畑	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて手段を選択し情報を収集する。 ・ 相手や目的、意図に応じて論理的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの行為について責任をもって意思決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひまわりを育てることで地域の方々との触れ合いや連携を深めていく。 	28
体育祭 文化祭 職業体験	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な状況の中から適切に課題を設定する。 ・ 目的に応じて手段を選択し情報を収集する。 ・ 視点を定めて多様な情報を分析する。 ・ 相手や目的、意図に応じて論理的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者とのかかわりについて自分の課題を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他学年や地域の方々とはふれあい、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する。 	35
防災学習	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題意識をもち、阪神淡路大震災について学ぶ。 ・ 事前の準備や対応策などを考えるなど、災害に対する取組を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分をみつめ長所を知っていく。 ・ 自己の将来を考え、夢や希望をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの生活とかかわる地域の特性を理解する。 ・ 防災への意識を高め、地域の中で中学生の果たす役割について考える。 	7

《防災学習の単元計画》

○ 1. 単元名 防災学習～地域に貢献できる大人になるために～

○ 2. 単元目標

- ・ 地域の避難場所や防災設備について調べ、住みよい町について考える。
- ・ 災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。
- ・ 津波や地震の簡単なメカニズムを知るとともに、地域の地理的特徴を理解する。
- ・ 学習内容と日常生活を関連づけ、地域や家庭内における自らの課題に気づき、地域社会における自分の役割や災害時にできる行動について考える。

○ 3. 指導計画（全6時間）

時間	学習活動	学習内容	評価（方法）
1	阪神淡路大震災を知る	震災について具体的にイメージをもち、今後の防災学習についての関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神淡路大震災について自分の考えを持ち、ワークシートにまとめることができる。 【学習方法】（ワークシート） ・ パワーポイントの内容から、防災に関する正しい情報をまとめることができる。 【学習方法】（ワークシート） ・ 本時の学習を通して、震災に対して自らの考えを持ち、ワークシートにまとめることができる。 【自分自身】（話し合いの様子、ワークシート）
2	災害後の復興について考える	震災後の西宮の様子を知り、震災後の生活の苦労や、どのように復興していったのかなど、前時で得た知識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害に強い街づくりや、災害時に自分は何ができるかなど、プリントに考えをまとめることができる。 【自分自身】（ワークシート、発表） ・ 班員の考えを聞き、自分の置かれている立場、役割などについて考えることができる。 【他者や社会との関わり】（話し合いの様子）
3	防災について考える	阪神淡路大震災をもとに、日ごろの防災について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを利用して、自分の普段の取組について考えをもち、課題などを見出すことができる。 【学習方法】（ワークシート） ・ セルフチェックや動画の視聴などを通して、正しい防災の知識を得ることができる。 【自分自身】（活動状況の観察、ワークシート）

4	想定される大地震	最近の災害をもとに、地震が関東にも起こる可能性が高いことを知る。また、身近にどのような被害が想定されるのか、自分たちには何ができるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 資料を通し、身の回りの危険箇所について考え、今後の課題を設定することができる。 【学習方法】(活動状況の観察、ワークシート) シェイクアウトについて意義を確認し、自分のできるプラス1行動について考えることができる。 【自分自身】(活動状況の観察、ワークシート) 想定される大地震について、班員の考えを聞き、自分ができることについて考えることができる。 【他者や社会との関わり】(話し合いの様子)
5	釜石の奇跡 (東日本大震災に学ぶ)	東日本大震災当時に釜石市の中学生などがとった行動「釜石の奇跡」をもとに、中学生として、地域の一員としての自分の役割を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 震災当時の釜石市の生徒たちの行動について解説している動画の視聴を行い、災害時に自分ができる行動について考えることができる。 【自分自身】(活動状況の観察) ワークシートを活用して今後の自分の課題について考えることができる。 【他者や社会との関わり】(話し合いの様子、ワークシート)
6	防災学習のまとめ	まとめのワークシートを利用し、これまでの学習を通しての考えを発表することで、学習の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 友人の発表を聞き、まとめのワークシートを使用するなどして、今後身の回りで災害が起こった場合、社会の一員として自分ができることについて考えることができる。 【自分自身】 【他者や社会との関わり】(話し合いの様子、ワークシート、活動状況の観察、発表)

○4. 評価観点、評価規準

学習方法について	自分自身について	他者や社会との関わりについて
<ul style="list-style-type: none"> 集めた資料や知り得た情報を、わかりやすくまとめたり、自分なりに分析したりしている。 自分の生活を振り返り、自分なりに防災に対しての課題を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な避難方法や、防災に関する自らの課題を考えている。 災害時に起こる被害を予想しながら、避難時に気をつけることや自分のできることを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む地域の特徴を捉え、災害が起こったときの対処の仕方を考えている。 中学生として地域社会における自分の役割や災害時にできる行動について考えている。




5. 授業実践の記録

授業実践① 防災学習第1回「阪神淡路大震災を知る」 1月13日実施

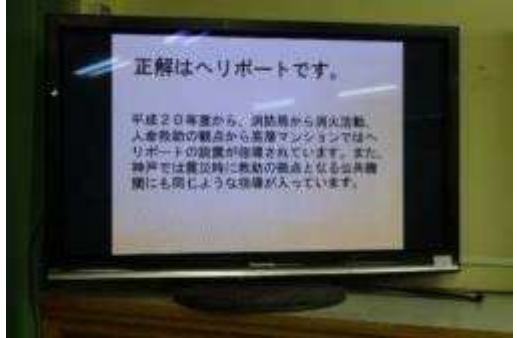
・本時のねらい

震災について具体的にイメージをもち、3年次の修学旅行で訪れる神戸市の「人と防災未来センター」など今後の防災学習についての関心を高める。

展開

時間 (分)	学習活動	留意点
8 15	<p>来年度の修学旅行の概要を知り、神戸での課題解決学習に対して意識づけをする。</p> <p>パワーポイントを用いて、神戸の建築の工夫や、人と未来防災センターについての説明を行う。</p>	<p>修学旅行の大まかな日程プリントを配付する。修学旅行においても「防災学習」を行うことを意識づける。</p>
		
20	<p>プリントを用いて予想を立てながら、阪神淡路大震災について考える。</p> 	<p>教師が補足説明を</p>

3 5 パワーポイントで解答を示し、自分の予想と照らし合わせ、当時のニュース映像などから阪神淡路大震災について知る。 行いながら進める。



4 5 ニュースの映像から感じたことをプリントに記入する。その後、自分の考えを発表する。



5 0

次回の予告を聞く。

- ・次回は災害後の復興について考えていく。
- ・街はどのようになったのか、またどのように復興しようとしたか。
- ・自分が被災したとして無事だった場合、どういうことができるか考えておく。

聞く姿勢をしっかりとするなど発言しやすい環境づくりを行う。

現在の中学2年生は阪神淡路大震災後に生まれたので、まずは震災を知るという授業を導入で用いました。この段階では災害に対してどのように取り組むのかについて、「地震に強い建物を建てる」「困っている人に協力する」など、間違っていないものの自分に置き換えて考えている生徒は少なく、意見に関しても具体性に乏しいものが多くみられました。


授業実践② 防災学習第4回「想定される大地震」

1月20日実施

・本時のねらい

最近の災害をもとに、地震が神戸だけでなく、私たちの住む関東にも起こる可能性が高いことを知る。また、身近にどのような被害が想定されるのか、自分たちには何ができるのかを考える。

展開

時間 (分)	学習活動	留意点
5	座間市防災マップ、ハザードマップを見て、自分（自宅）の周りが災害時どのようなようになるのかを確認する。	感じたこと、考えたことはワークシートにまとめる。
		
<p>1. 座間市防災マップ、ハザードマップなどを見て、どんな感想を持ちましたか？</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の家の付近には特に色がついていないが、通学路や西中の周りには浸水する恐れがあるので注意しなければいけないと思った。</p> </div>		
<p>1. 座間市防災マップ、ハザードマップなどを見て、どんな感想を持ちましたか？</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の家がある範囲では、浸水が0.5m未満だとかかれています。でもすぐ近くに1.0~2.0m未満の区域もあるので、気をつけたいと思います。備蓄倉庫や避難場所も近くにあるので、覚えておきます。</p> </div>		
13	資料①風水害対策を参考にして、今の自分の課題を考える。	

20	<p>資料②想定される大地震をみて、座間市に起こりうる今後の大地震と、その被害予測を知る。 班内での意見交換を行う。</p>	<p>パワーポイントを利用して、一斉で行うと効率が良い。</p>
		
40	<p>資料③座間市のシェイクアウトの取組を見て、現在の活動の目的・意義を確認し、今後考えていくべき「プラス1」について考える。(ワークシートにまとめる)</p>  <p>次回の予告を聞く</p>	<p>ハンドブックを利用し、現在行っている取組の確認と、今後の活動に向けて自分なりの考えをもたせるようにする。</p> <p>身近に潜む危険性を意識させ、改善できる点は改善しようとする課題意識をもたせる。</p>
50	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災についての学習に入る。 ・当時の現地の中学生たちの行動について学ぶ。 	

実践①から2回の授業（震災後の復興を考える、災害に対する意識調査、現時点の課題の確認）を通して、クラスの友人と考えを共有し、自分ならどうするか置き換えるなど、実生活を題材に考える活動を通じた後の授業となります。実践①の時と比較すると、考え方や感想に具体性がみられ、話し合い活動でも、より活発に意見交換する場面がみられるようになりました。

授業の最後では座間市で行っている取組のシェイクアウト（Drop 身を低くする、Cover 頭を守る、Hold On 動かない）後のプラスワン行動を考える場面を設けました。前回の授業と比較して、自らが行動する場面を想定し、実際に取り組める活動をあげている生徒が多くみられるようになりました。

参考

生徒の取組の様子（ワークシートより）

4、シェイクアウト「プラス1」について、自分ができる「プラス1」の場面と内容を考えてみよう

まず、1人とかだ、たがた、くさん人のいる場所にゆわがおさまったが
行く。周りにからだを守り物がなからたら、中央に行く

4、シェイクアウト「プラス1」について、自分ができる「プラス1」の場面と内容を考えてみよう

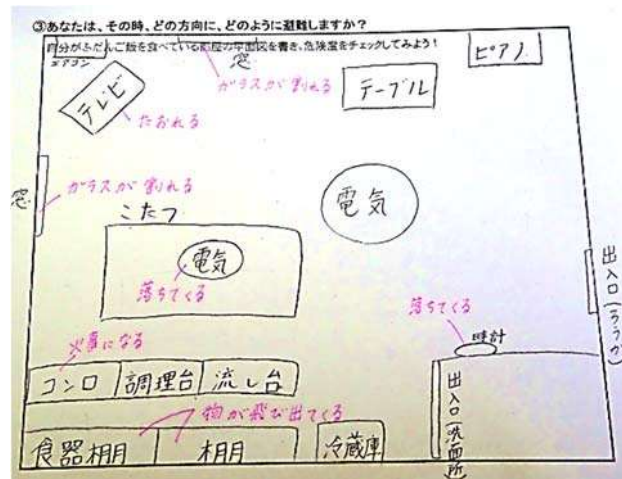
・情報を聞きながら、家族の安全確認をする。
・ゆわがおさまたら、水まわり、ガスまわり、食器などを確認する。

4、シェイクアウト「プラス1」について、自分ができる「プラス1」の場面と内容を考えてみよう

in車 → ドアを開いて逃げ道確保
家 → ラジオとかで情報収集
屋外 → 帰宅方法とかの確認

この後の授業では、東日本大震災の時に釜石市の中学生たちがとった行動のVTRを視聴し、避難場所の確認や災害時に考えるべきこと、取るべき行動を考えました。西中学校の学区内では、相模川や鳩川の氾濫だけでなく、入谷地区のがけ崩れ、土砂災害も想定されるだろう、地盤がよくないから液状化も起こるのではないか、という意見も生徒たちの中から出るようになりました。

そして最後のまとめの授業では、これまでの学習を振り返り、次年度に向けた課題の設定を行った。また、右のような自宅の危険箇所チェック図を作り、家庭内でも防災について話題になるような活動も行いました。防災学習を通して、考え方や行動の想定の様子などに、生徒たちに意識の変容を感じています。



参考 防災学習第6回 まとめワークシートでの生徒の思考の様子

2. 防災（地震・災害）学習を通して、あなたはどんな考えを持ちましたか？

- 災害はいつも想定、予想を超えているからしっかり覚悟や準備としておかなければいけないと思った。
- 家族や近所との関係性、コミュニケーションがとれても大切だと思った。

3. 実際に災害が起きたとき、中学生の君たちはどんな行動をとったらいいと思いますか？

- 家族、両隣の人のお宅を確認したり、励ましたりする。（家にいるとき）
- 自分から前向きに行動する。（いじめ）釜石市の人みたいに避難する。
- 手紙、義援金、支援物資を送る。（被災していない場合）
- 災害の恐ろしさを次に伝える、活かす。（体験したとき）

2. 防災（地震・災害）学習を通して、あなたはどんな考えを持ちましたか？

- 最初は大地震の怖さなんてそんなになかったけど阪神大震災の学習で、ちばやリ行動とは断片的で大かさを知った。
- また、防災グッズの配置する場所や身を守る場所のものが入っていると良いという事を知った。
- 一番大切なのは避難の仕方だと思った。

3. 実際に災害が起きたとき、中学生の君たちはどんな行動をとったらいいと思いますか？

- 大きな声を出したり、走ったりすること。
- （できる限り多くの人に知らせるようにする）
- 他人でも手助けをする

2. 防災(地震・災害)学習を通して、あなたはどんな考えを持ちましたか?

常日頃からの意識が大切だと思った。自分が経験した東日本大震災からも5年近く経つたが、災害への意識がうすれてしまっているけど、実際に走ったときに、身を守れるかどうかはやはり日常での意識だということを感じたから避難訓練とかもグウグウやるんじゃなく真剣に取り組もうと思った。

3. 実際に災害が起きたとき、中学生の君たちはどんな行動をとつたらいいと思いますか?

まずは、自分の身を守る。
同様に声をかけ、避難が必要なのであれば、自らが先頭をきめて逃げる。大人の人たちに協力する。

2. 防災(地震・災害)学習を通して、あなたはどんな考えを持ちましたか?

地震や逃げ方、日常の過ごし方があまりわか、逃げかたけれど、授業を通じて、やはり、地震は怖いということがわかりました。「こんなときは津波を怖いから平気だとか」「防災マップの、逃げかたから平気だ」ほどの気持ちをもたず、地震が起きたときは、限界まで逃げようと思いました。いつ地震がくるかわからないので、家でも家族が集まる場所など決めたいと思いました。

3. 実際に災害が起きたとき、中学生の君たちはどんな行動をとつたらいいと思いますか?

少しでも早く高いところに逃げる。
こまっている人やけがをしている人をたすける。
(できる範囲で協力する)

2. 防災(地震・災害)学習を通して、あなたはどんな考えを持ちましたか?

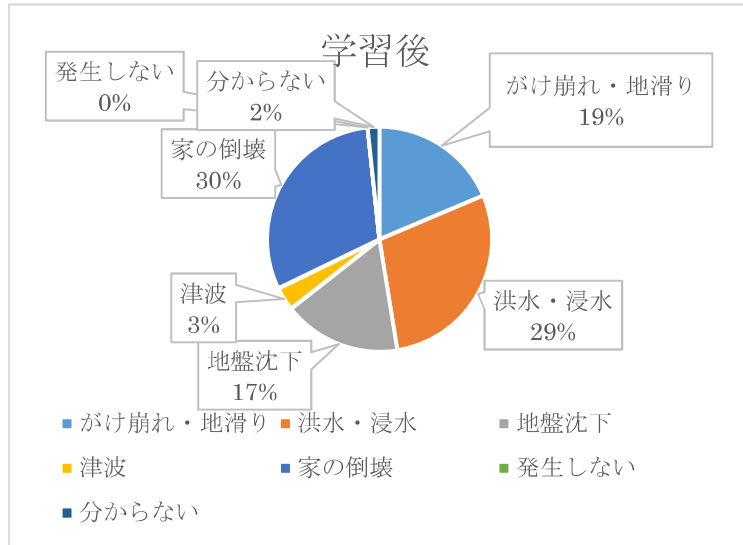
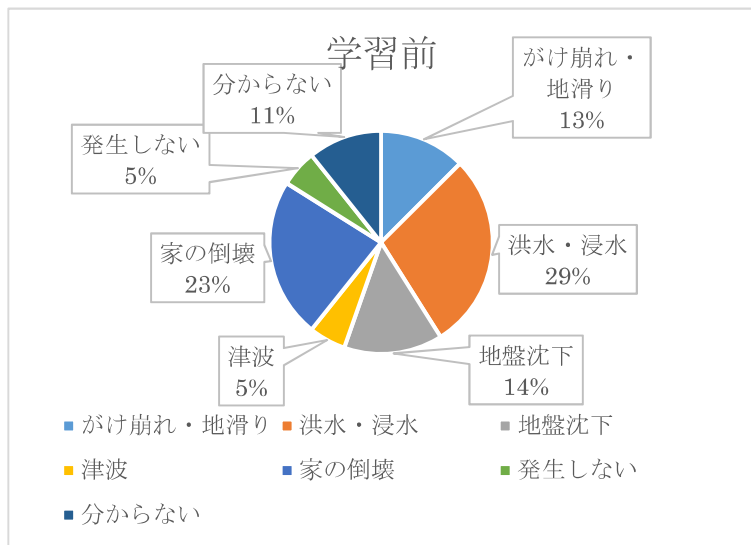
地震がくることは避けられないが被害を減らす努力はできると思いました。
例えば、火災は、火をこまめに消火し、ガスが倒れないように固定おなじをして、なくすことができます。
なので、防災は、家族全員でしなければいけないと思いました。
家では、食器棚が、テレビなどを倒れないように固定しています。

3. 実際に災害が起きたとき、中学生の君たちはどんな行動をとつたらいいと思いますか?

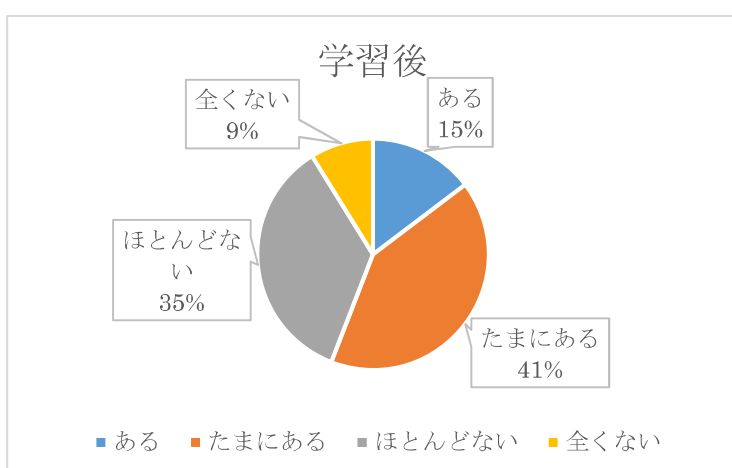
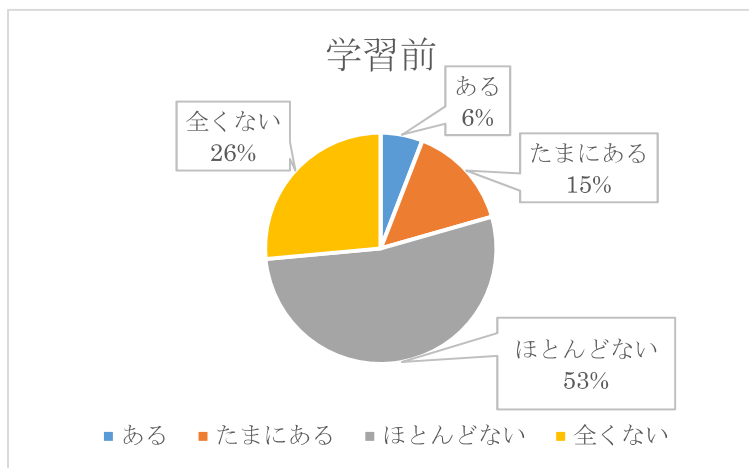
自分がいなくなったら、親に迷惑をかけるので、^{①自分のために}第一に逃げ、第二に家の物資を確保し、第三に、^{②子どもと、熟知で、迷惑にならない程度に}迷惑にならない程度で、手助けができればいいと思います。

防災学習前後での生徒のアンケート回答の様子（西中学校2年生158名対象）

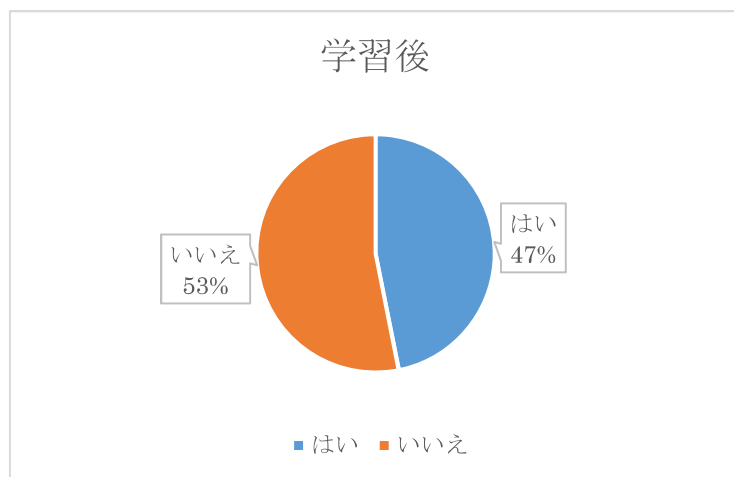
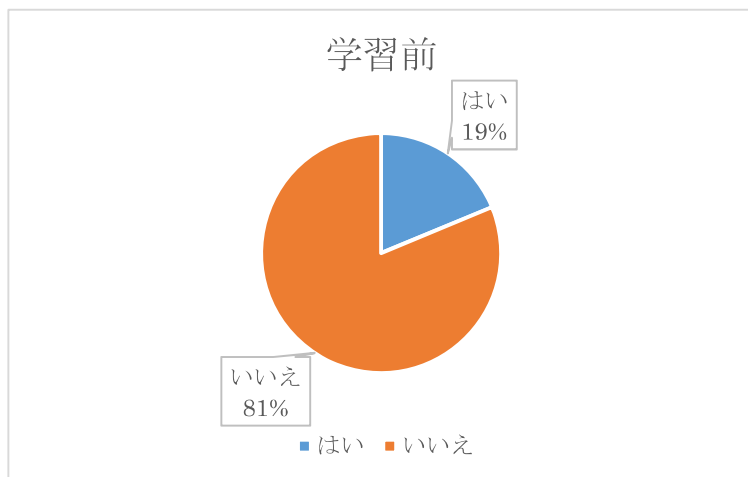
※1. 現在あなたが住んでいる地域では、どのような災害が発生すると思いますか。



※2. 家族と、地震などの災害について話し合うことがありますか。



※3. 家庭で災害時の避難方法、連絡の取り方について話し合っていますか。



6. 研究の成果と課題

今回の研究の成果としては、最初のオリエンテーション時と防災学習終了時にとったアンケート結果から、自分が住んでいる地域を理解し、家庭での話し合いの場をもつなど、生徒の防災に対する意識の向上が見られました。

また、ワークシートの取組の様子などから昨年度に取り組んだeカレッジの知識を、自分が住んでいる地域や自宅などの身近な題材を扱い、より具体的（現実的）に自分の現状を理解し、考える生徒が増えたと感じています。また、意見交換の様子でも友人の意見を参考にし、考えを深め、自ら考え、学んでいる生徒も多くみられました。

教材に関しては、防災学習の概要を生徒に提示し、パワーポイントなどの視覚教材の作成を行いました。また阪神淡路大震災や東日本大震災など、スケールの大きな題材に関しては動画教材を用いるなどの工夫を行いました。ワークシートの取組に関しても、総合学習のファイルを利用して管理し、これまでの学習を踏まえて進められたこともよかったと思います。

今後の課題としては、今回様々な動画教材を用いたが、災害復興の行政の取組など、中学生にとって少しわかりづらい内容もあったので、よりわかりやすく適切なものを選ぶ必要があると感じます。また教師の説明の場面でも、クラスごとの取組の差をなくすために、図を用いたりするなど、教材の提示の工夫が必要です。

まとめや振り返りの場面では意見交換の場面を設定し、様々な考えを共有させて深める工夫を積極的に行う必要性を感じました。そして今回の活動や資料（総合のファイル）を今年度だけものにしておくのではなく、来年度も継続して活用し、今後の防災学習につなげていきたいです。

7. おわりに

今年度、研究する機会をいただいたことで、学校内で抱えている全体計画や年間計画を含む問題点が見えてきました。また、総合的な学習を展開するにあたっては、学校の地域性や生徒の実態、他の行事との兼ね合いなども考慮するなど、教師側の見通しや努力が必要なのだと改めて感じました。教科外活動の研究を行ったことを通して、今後は発信していく立場として担っていきたいと考えています。そして、生徒が課題解決を通して達成感を得られるような手だてを常に考え、教師としての資質の向上に努めたいと思います。

8. 参考文献

座間市 HP（安全防災課災害対策係）

座間市シェイクアウト安全行動ハンドブック

座間市防災マップ、洪水ハザードマップ

神奈川県土砂災害情報ポータル

文部科学省 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

文部科学省 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開

